

表 7-9 「江間区域」の主な文化財

名称	概要
北江間横穴群	大嵐・大師山等にある7世紀から8世紀に造られた横穴群
石櫃	「若舎人」銘のある石櫃 大北横穴群24号墓から出土
地震動の擦痕	昭和5年(1930)の北伊豆地震により魚雷が大きく移動し、表面にその痕跡が残る
木造観音菩薩坐像	北條寺本尊として祀られている 南北朝時代の造立
木造阿彌陀如来坐像	北條寺に祀られている 鎌倉時代の造立
牡丹鳥獣文繡帳	北條寺所蔵 室町から桃山時代の作
北条義時の墓	北條寺にあり、義時夫妻の墓と伝えられる

C. 区域の課題

- 北江間横穴群について、保存・管理のための取組の継続が求められる。
- 牡丹鳥獣文繡帳や仏像をはじめとする区域内の文化財について、保存に対する環境整備や修理の実施等の措置が十分ではない。

D. 保存・活用のテーマ・基本方針・焦点

保存・活用のテーマ

都とつながる豪族の墓域
—「若舎人」の眠る里—

保存・活用の基本方針

北江間横穴群などの適切な保存・管理に努めるとともに、区域内に存する仏像などの美術工芸品の把握・保存・修理を計画的に進める。

保存・活用の焦点

区域内の文化財の把握
●調査・研究の推進
●仏像等美術工芸品の調査・保存

E. 区域固有の保存・活用方策

表 7-10 江間区域共通の方策（実施事業）

※取組主体

市：伊豆の国市、所：文化財所有者・管理者、住：住民、民：民間団体、
学：学校、研：研究者・研究所等研究機関・大学、行：伊豆の国市以外の行政

事業 No.	事業名	事業内容	実施期間	取組 主体
			恒常：R5～R24 前期：R5～R9 後期：R10～14 次期：R15～24	
69	北江間横穴群の調査・保存・管理	本区域を代表する文化財である北江間横穴群は、雨風からの保護が困難であるため、その適切な保存・管理を行い、後世に確実に伝えていく。特に横穴墓や崖面の適切な保存に努める。	次期 (R15～R24)	市・ 所
70	仏像等美術工芸品の保存・修理	牡丹鳥獣文繡帳など、屋内の文化財についても、各所有者との連携のもとでの確かな保存と、必要に応じた修理を進める。	次期 (R15～R24)	市・ 所

⑤奈古谷・多田区域

A. 区域の範囲

国清寺を中心とし、平地部の奈古谷・多田集落やその東側の山麓まで含めた範囲を区域とする。

B. 区域の歴史文化の特徴

- ・ 国清寺・毘沙門道・観音堂・慈光院などの寺院・堂をはじめ、それらを結ぶ道沿いに残されている摩崖仏や石造物など、多くの宗教的な文化財が含まれる。
- ・ 大塚古墳群は、5～6世紀の北伊豆における古墳文化の中心である。
- ・ 奈古谷東部の丘陵には、古代の山岳寺院「授福寺」や後白河法皇・源頼朝と親しかった文覚上人の庵が存在したと伝わる。
- ・ 室町時代には、伊豆国の守護である山内上杉氏が国清寺を創建し、伊豆における拠点とした。そのため、上杉禪秀の乱（応永23年（1416））や永享の乱（永享10年（1438））など室町幕府の政争の舞台ともなった。また、堀越公方も一時ここを拠点とした。
- ・ 国清寺の釈迦如来坐像や毘沙門堂の木造金剛力士像など、重要な美術工芸品が残されている。
- ・ 国清寺周辺や丘陵上には、年号や種字を刻んだ摩崖仏や石造物が多く分布する。
- ・ 戦国時代には、韮山城を支える職人集落が存在したことが、古文書などから確認されている。

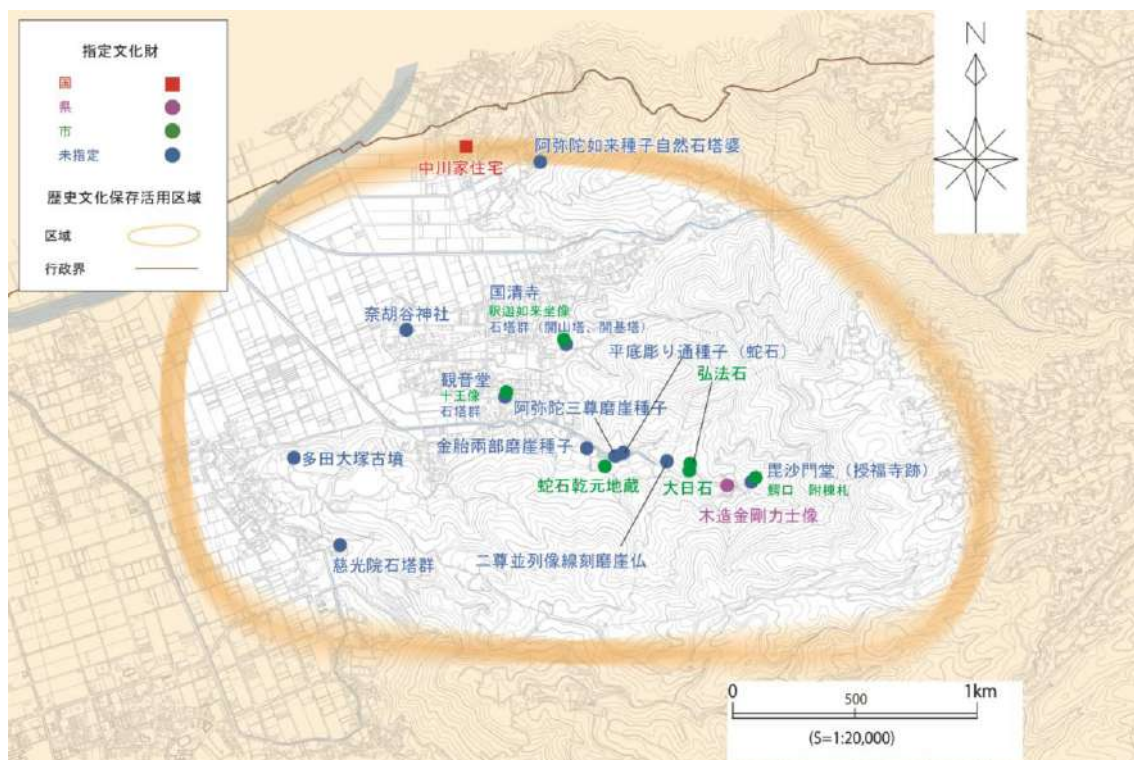


図 7-7 奈古谷・多田区域の範囲と主な文化財の分布

表 7-11 「奈古谷・多田区域」の主な文化財

名称	概要
中川家住宅	昭和初期に建設された洋風建築
木造金剛力士像	毘沙門堂仁王門にある鎌倉時代後期造立の阿形・吽形二軀
釈迦如来坐像	国清寺本堂に祀られ、慶派の特徴がみられる
鰐口 附棟札	鰐口には慶長18年（1613）、附棟札には慶長12年（1607）の銘がある
蛇石乾元地藏	石佛龕形式のもので、乾元2年（1303）の銘がある
弘法石	自然岩に地藏菩薩が線彫され、至徳2年（1385）の銘がある
大日石	自然岩に地藏菩薩が線彫され、明德2年（1391）の銘がある

C. 区域の課題

- 各文化財の見学のための環境整備が十分でない。
- 仏像・石造物等の文化財について、所有者や地域住民がその価値を認知しておらず、保存のための措置が十分にとられていないものがある。

D. 保存・活用のテーマ・基本方針・焦点

保存・活用のテーマ

古代から中世にわたる宗教空間
—文覚上人から上杉氏へ—

保存・活用の基本方針

古代から戦国時代にわたる各時代の遺産の保存・修理・管理の適切な推進により、後世に確実に伝えていくとともに、より接しやすくするための工夫、近接の葦山城跡等とも連携させた見学環境の整備を進める。

保存・活用の焦点

国清寺とその周辺文化財の保全・活用
●仏像・石造物の調査・保存・修理
●見学環境の整備

E. 区域固有の保存・活用方策

表 7-12 奈古谷・多田区域共通の方策（実施事業）

※取組主体

市：伊豆の国市、所：文化財所有者・管理者、住：住民、民：民間団体、
学：学校、研：研究者・研究所等研究機関・大学、行：伊豆の国市以外の行政

事業 No.	事業名	事業内容	実施期間	取組 主体
			恒常：R5～R24 前期：R5～R9 後期：R10～14 次期：R15～24	
71	保存・修理の推進	野外にある石造物など劣化が目立つものが多いことから、計画的かつ継続的な保存・修理・管理を進める。新たな保存技術の導入と専門機関との連携も検討する。	次期 (R15～R24)	市・ 所
72	見学・散策環境の整備	寺院や仏像、石造物などの文化財を安全かつ快適に散策しながら見学できるよう、回遊ルートとなる道路や通路の整備や適切な管理・体系的なサイン整備等を検討する。	次期 (R15～R24)	市・ 住・ 行

⑥大仁区域

A. 区域の範囲

広瀬神社を中心として、宗光寺から大仁までの丘陵地や低位段丘、さらに城山周辺の山麓と浮橋・長者原など東地区を含めた範囲を区域とする。

B. 区域の歴史文化の特徴

- ・ 宗光寺の横山坂から大仁にかけて残る旧下田街道沿いには、道祖神や石塔群が多数見られ、宗教的な文化財も多く存在する。
- ・ 狩野川の段丘上や市域東部の丘陵上には、旧石器・縄文時代の遺跡が多く分布し、古くから人の営みが確認できる。
- ・ 仲道A遺跡の縄文時代草創期の土器群は伊豆半島最古級の土器であり、縄文時代のはじまりを知ることのできる貴重な資料である。
- ・ 南北朝から室町時代には、神益城（金山城）などで畠山国清と足利氏との戦いが行われた。また、山内上杉氏が蔵春院を建立した。
- ・ 広瀬神社・熊野神社は、古代から現代に至るまで地域の信仰を集める伝統ある神社である。
- ・ 田京・三福・大仁の三番叟やかわかんじょうなど、無形民俗文化財が多く残る。
- ・ 高度経済成長以降、東洋醸造（現旭化成）と東京電機（現東芝テック）を中心に発展した。当時工場で使用・作成していた道具等の資料は、区域発展の歴史を知ることができる貴重な資料として、伊豆の国市郷土資料館で展示・保存されている



図 7-8 大仁区域の範囲と主な文化財の分布

表 7-13 「大仁区域」の主な文化財

名称	概要
仲道A遺跡出土縄文草創期遺物一括	仲道A遺跡出土の縄文時代草創期の土器
平石古墳	古墳時代後期の円墳であり、組合式家形石棺を有する
田京の三番叟	式三番と呼ばれ広瀬神社で奉納される、江戸時代の台本が残る
三福の三番叟	種蒔三番叟と呼ばれ、熊野神社で奉納される
大仁の三番叟	種蒔三番叟と呼ばれ、大仁神社で奉納される
かわかんじょう	神島の狩野川で行われる盆行事
旧菅沼家住宅（知半庵）	かつて名主を務めた家の住宅で、主屋は江戸時代後期に建てられた
東洋醸造関係資料	東洋醸造（現旭化成）の造酒関係の道具や酒瓶等

C. 区域の課題

- 区域内の文化財の市民の周知度が低い。
- 無形民俗文化財について、保存・継承のための措置が不十分である。
- 縄文時代草創期から中期の遺跡があり、重要な考古資料が出土している。未調査範囲にも資料が包蔵されている可能性があり、適切な保護が求められる。

D. 保存・活用のテーマ・基本方針・焦点

保存・活用のテーマ

狩野川がつくりだす地形が紡ぐ文化
—古代の村と受け継がれる文化—

保存・活用の基本方針

イズノクニのはじまりと区域の発展を伝える文化財を多くの人が知り、学べるようにするとともに、地域固有の伝統民俗文化の保存・継承を図る。

保存・活用の焦点

原始・古代の遺跡の解明と伝統民俗文化の継承

- 縄文時代遺跡・古墳の調査・研究の活用
- 区域内発展に係る工業関係資料の保存と活用
- 民俗文化財の保存と継承

E. 区域固有の保存・活用方策

表 7-14 大仁区域共通の方策（実施事業）

※取組主体

市：伊豆の国市、所：文化財所有者・管理者、住：住民、民：民間団体、

学：学校、研：研究者・研究所等研究機関・大学、行：伊豆の国市以外の行政

事業 No.	事業名	事業内容	実施期間	取組 主体
			恒常：R5～R24 前期：R5～R9 後期：R10～14 次期：R15～24	
73	有形文化財の展示/講演会等の開催	区域内の縄文・古墳時代の遺物・遺跡について多くの人が知り、学べるように、展示の充実や講演会の開催など、周知・学習活動の充実を図る。 また、区域の発展に寄与した工業に関わる資料を郷土資料館等で展示し、市民が気軽に学べるように図る。	次期 (R15～R24)	市・所
74	民俗行事・民俗芸能の保存・継承	かわかんじょう・田京の三番叟・三福の三番叟・大仁の三番叟など、民俗行事及び民俗芸能の保存・継承を支援する。	次期 (R15～R24)	市・民
75	埋蔵文化財包蔵地の周知	埋蔵文化財包蔵地図を用いて包蔵地の周知を図る。	恒常 (R5～R24)	市

⑦伊豆長岡区域

A. 区域の範囲

長岡・古奈など源氏山丘陵を中心として、天野・小坂地区等周辺の平野部を含めた範囲を区域とする。駒形古墳や洞古墳、北条時頼・天野氏一族の供養塔などの文化財がある。

B. 区域の歴史文化の特徴

- ・ 駒形古墳や洞古墳、北条時頼・天野遠景の墓などの文化財がある。
- ・ 長岡・長瀬・壺之上・小坂では縄文・弥生・古墳時代の遺跡が展開している。人物埴輪が出土した駒形古墳1号墳や、横口式石槨（白石の石棺）を有す洞古墳など、古墳時代の遺跡は貴重である。
- ・ 花坂・戸沢には、伊豆国分寺の瓦等を生産した花坂島橋古窯址など、奈良～平安時代の窯跡が多く分布する。
- ・ 古奈温泉の歴史は古く、鎌倉時代から将軍をはじめ、武士や僧が利用したことが古文書から確認できる。「吾妻鏡」等の文献に見る古奈（小名）温泉の記録は注目される。
- ・ 明治40年（1907）の伊豆長岡温泉湧出後、初めて旅館ができた明治43年（1910）以降に誕生した伊豆長岡見番は昭和30年代には所属する芸妓が400人を超える最盛期を迎えた。
- ・ 昭和35年（1960）頃、伊豆長岡見番内に公認伊豆長岡芸妓学校（公認静岡県芸妓学校）が開設された。この芸妓学校は、京都を除くと伊豆長岡にしかない芸妓専門の学校であり、伊豆長岡温泉の芸妓育成を一手に担う養成機関であった。

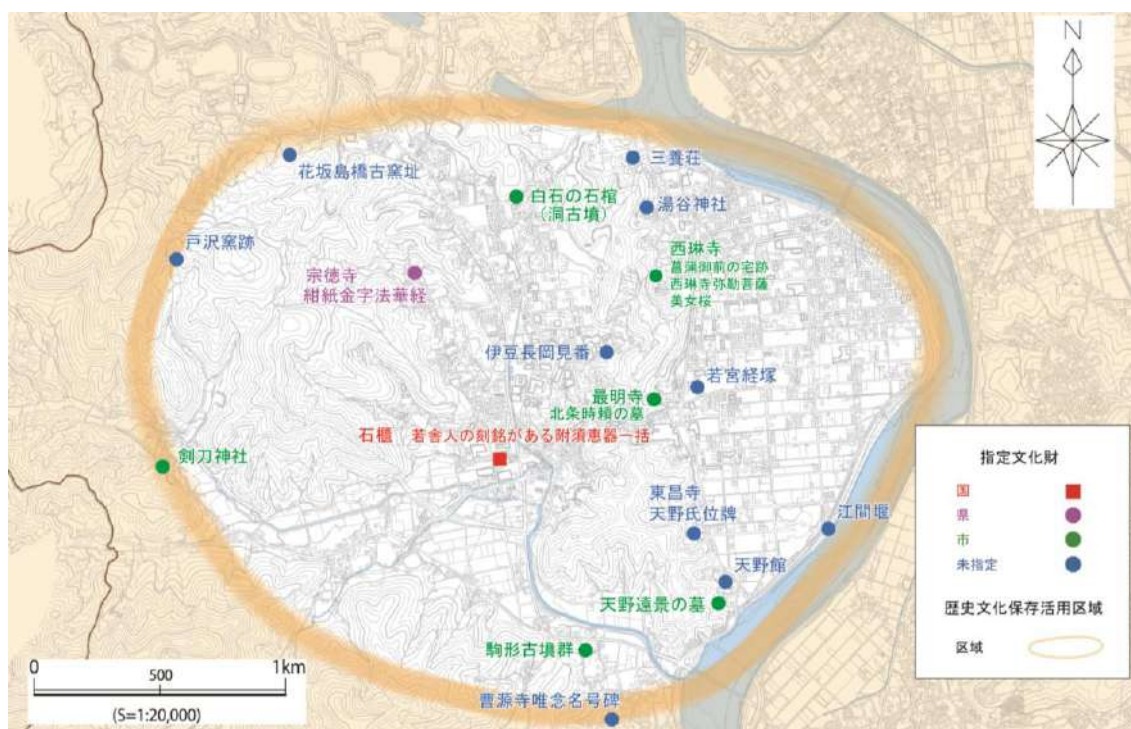


図 7-9 伊豆長岡区域の範囲と主な文化財の分布

表 7-15 「伊豆長岡区域」の主な文化財

名称	概要
紺紙金字法華経	宗徳寺所蔵の卷子本であり、全十巻からなる
天野遠景の墓	鎌倉幕府御家人天野氏の供養塔で、東昌寺には位牌が残る
白石の石棺	洞古墳1号墳の埋葬施設であった凝灰岩製のくり抜き式石槨
駒形古墳群	1号墳は前方後円墳で、人物埴輪が出土
湯谷神社	古奈温泉中心に鎮座し、この地から温泉が湧いたという伝承がある。

C. 区域の課題

- 別荘や見番等の建造物、芸妓をはじめとする温泉と共に発展した文化財が多数所在している。これらの文化財を温泉へ来た観光客と結び付け、活用していくことが地域の活性化には不可欠であるが、現状では実施が不十分である。
- 芸妓文化の保存・継承が課題である。
- 区域を特徴づける有形文化財の調査・保存・修理が立ち遅れている。

D. 保存・活用のテーマ・基本方針・焦点

保存・活用のテーマ

過去から未来につなぐ温泉文化
—いにしえから続く癒しの地—

保存・活用の基本方針

古くから親しまれた温泉資源と、身近な文化財をつなぎ、文化の香り高い温泉地としての活性化、まちづくりにつなげる。

保存・活用の焦点

- 温泉を生かしたまちづくりの推進
- 文化財としての温泉文化の把握と活用
 - 歴史文化にふれる魅力的な温泉のまちづくりの推進

E. 区域固有の保存・活用方策

表 7-16 伊豆長岡区域共通の方策（実施事業）

※取組主体

市：伊豆の国市、所：文化財所有者・管理者、住：住民、民：民間団体、学：学校、研：研究者・研究所等研究機関・大学、行：伊豆の国市以外の行政

事業 No.	事業名	事業内容	実施期間	取組 主体
			恒常：R5～R24 前期：R5～R9 後期：R10～14 次期：R15～24	
76	伊豆長岡温泉活性化に向けたまちづくり	伊豆長岡見番等の建造物を歴史ある温泉街の風景として維持・活用し、温泉街の活性化につなげる。	恒常 (R5～R24)	市・住・民
77	長岡温泉街中心道路の美装化	伊豆長岡温泉街の中心部を通る道路の美装化を行う。	前期 (R5～R9)	市
78	芸妓文化の保存・継承	芸妓文化の保存・継承のため、踊り等公開の機会を提供する。	恒常 (R5～R24)	市・住・民
79	古墳の保存	駒形古墳群・白石の石棺の保存を適切に行う。また、必要に応じさらに調査を行う。	次期 (R15～R24)	市・所